

(平成 29 年 3 月試験研究業務月報)

タスクチーム活動：飼料用米の新制度に対応するための栽培・利用方法の提案

情 報

## **飼料用米の多収栽培技術普及のための地域検討会を開催**

畜産センターや中丹西・丹後農業改良普及センター、農林センターで構成する飼料用米のタスクチーム<sup>※1</sup>は、飼料用米の多収を目指して、栽培農家や、関係市町職員等の 54 名の参加を得て、南丹、中丹、丹後地域で検討会を開催しました。

検討会では 17 カ所のモデルほ場の収量等の成績や、全戸配布のアンケート調査結果から、飼料用米各品種の特徴、減収要因等について報告し、反収<sup>※2</sup>600 kg以上が可能な栽培方法を提案しました。参加者からは、「実肥の是非」「今後の飼料用米施策への不安」等の意見が寄せられ、今後とも飼料用米を継続して栽培していきたい旨の意志を確認できました。

当タスク活動は今年度で終了となりますが、今後も普及センターとの連携を密にして、多収栽培技術の普及や耕種農家と畜産農家のマッチング等、飼料用米の増産、推進を行って行きます。

※1 タスクチーム：研究機関と普及組織が連携して、モデルほ場の設置等の手法を用いて現地課題を早期に解決する活動

※2 反収：一反（10a）あたりの米の収量



丹後（3月10日）



終了後に稲標本を見ながら個別相談  
南丹（3月9日）

畜産センター